モーターエクスプレス

日本初!!レーシング学校設立

NODAレーシングアカデミー　野田英樹氏

一般教養を学びながら走り込める

引退から2年…「ようやく発表会にこぎ着けた」

F1やインディ、ルマン24時間でも活躍した野田英樹氏(43)は27日、自らの経験を生かして後進を育てる〝レーシング学校〟「NODAレーシングアカデミー」（NRA）設立の記者会見を開いた。栃木県・茂木町で中学、高校の卒業資格を得られる学校を設立し、ツインリンクもてぎで走行トレーニングを行いながら一般教養も学べる画期的なレーシングスクールだ。もちろん日本では初めての試み。2013年春の開校を予定している。

中学高校卒業資格も

現役を退いて2年、パイオニアとして海外で活躍した野田氏の新しい挑戦は後進の育成だった。それも一般教養課程を学びながら、徹底的な走り込みができる画期的な学校の設立だ。「現役引退の理由はこのプロジェクト。皆さんに協力していただき、ようやく発表会にこぎ着けました」とあいさつ。その顔には新しい目標を見つけたやる気がみなぎっていた。

野田氏がこの2年奔走してきたNRAは、日本で初めての試みで、世界的にも珍しいもの。大まかなカリキュラムは、午前中に走り込みやトレーニング、クルマの整備などレースに関する授業を受け、午後には一般の学校で学ぶ教養課程を勉強するもの。プロドライバーとなるための走り込みをしながら、中学や高校の卒業資格が得られるというのだ。

場所はツインリンクから程近い、茂木町の小学校跡地。校舎や施設を同町から無償で借り受け、学校を設立した。中等部はフリースクール制度として卒業資格が受けられ、高等部は広域通信制高校「星槎国際高等学校」に入学する形態を取り、スクーリングやリポート提出、そして試験を受けることで卒業資格が得られるシステムだ。

入学希望者は基本的に同校近辺に住んで通うことになるが、真岡鉄道の茂木駅から徒歩5分圏内に寮の建設を予定しており、全寮制に近い形態になりそうだ。また個人に合わせた教育を目指し、全学年20人程度の定員でカートなどレース未経験者でも入校できる。

「自分の子供を育てるつもりで頑張りたい」。そう意気込みを語る野田校長。10年後には卒業生が世界で活躍する姿を夢見ていた。（田村尚之）

★問い合わせ　「NODAレーシングアカデミー・茂木校舎」（㊟0285・63・0155）。「東京オフィス」（㊟03・6435・5410）

DUNLOP
NODA RACING ACADEMY
www.noda-racing-academy
Reebok
CrossFit
UNDER ARMOUR
ASTON MARTIN
Atlantic Cars Limited

「NODAレーシングアカデミー」を設立、生徒が乗るマシンを披露した野田英樹校長（潟沼義樹撮影）

★入学金　50万円。クラッシュ保証預かり金が100万円（卒業時に返却）。学納金はコースによって異なり、高等部の1年では授業料180万円、教材費150万円、一般科目授業料25万円。これに寮費36万円、食費（3食）44万円がかかるが、これは任意となる。また、連日2時間ほどのサーキット走行を予定しており、決して高くはない。

★講師　ドライバー部門はロジャー安川、加藤寛規、山崎信介、福田良、石浦宏明が名を連ね、エンジニア部門ではチームルマンが協力。トレーニングやマネジメントでもレース業界で活躍している一流の人々が教壇に立つ。校長はもちろん野田氏だ。

★車両　イタリアのフォーミュラモデナ社が製作したオリジナルの小型フォーミュラカーで、車重280kg、ホイールベース1800mm、搭載エンジンは2輪用の600ccながら、100馬力を発揮するという。小柄な車体のためカートコースでも走れるのが利点。2、3人に1台が割り当てられる予定だ。

F1タイGP 14年開催で基本合意

F1タイGPが一歩、前進した。27日付のバンコク・ポスト紙電子版が2014年の開催に向けて、F1管理会社（FOA）のバーニー・エクレストン代表(81)と基本合意に達したと伝えた。

正式決定に至るまでは開催権料などを詰める大きなハードルが残っているものの、日本、マレーシア、中国、シンガポール、韓国、インドに続く7カ国目のアジアでのF1開催は実現間近のようだ。

タイ地元紙報じる

バンコク・ポスト紙が伝えたところによると、タイ・スポーツ局のカノックパンド・チュラカセラム局長がスポーツ飲料「レッドブル」のチャラム・ユーウィッタヤー・オーナーを伴い、シンガポールGPでエクレストンFOA代表と会談、その席で14年F1開催に関して基本的に合意したというのだ。

「14年にタイがF1のホスト国になることに関し、基本的に合意した」と、カノックパンド局長は26日にバンコク・ポスト紙の取材に答えた。そして「モナコやシンガポールのような市街地コースになる予定で、シンガポール同様、ナイトレースになるだろう」と続けたという。

ネックは開催権料

しかし、最終決定に至るまでには、大切な会談を必要としている。最も大きなハードルとなる開催権料の交渉だ。バンコク・ポスト紙によると、シンガポールGPが開催権料の更新を行った際に、年間12億5000万バーツ（約31億3200万円）の支払いを求められたといわれており、タイも同様の金額を用意する必要があるという。

タイの観光・スポーツ大臣が以前語っていたところによると、F1開催にかかる総費用の60%を政府が負担し、残りの資金は「レッドブル」や「シンハ」などの企業が出し合う形態にすることを考えていたという。ただし、実際に開催が決まり、総予算が決まった時点で、費用負担の割合などは変わってくるだろう。

タイではF1が現在の形態になる以前の1939年に「バンコクGP」の開催が決まっていた。タイ王朝のビラ王子と呼ばれたビラポンセ・バヌテル・バルパン氏がかつて欧州モータースポーツ界で活躍するなどの実績を持ち、グランプリ開催にこぎ着けたものだが、第2次世界大戦勃発のために、やむなく断念したという経緯がある。今回のF1誘致には75年分の思いが込められているのだろう。

★CR-Z改良　ホンダは27日、スポーツタイプのハイブリッド車（HV）「CR-Z」（排気量1500cc）＝写真＝を大幅に改良し、28日に発売すると発表した。ハンドル右手のボタンを押し、アクセルを少し踏めば、電子制御技術で瞬時に同3000cc並みに加速できる。追い越しや高速道路への進入がスムーズに行える。エンジンと変速機を一新。電池素材を従来のニッケル水素からリチウムイオンに代え、荷室容量を減らすことなくモーター出力を1・5倍にまで高めた。燃費は無段変速機（CVT）搭載車でガソリン1ℓ当たり23・0km（JC08モード）。価格は236万5000～263万円。

自動車漂論

赤井邦彦

「夏休みルール」がもたら

国際モータースポーツのスケジュールがめちゃくちゃになっている。9月から10月にかけてF1はイタリアGP、シンガポールGP、日本GP、韓国GP、インドGPと続く。世界耐久選手権（WEC）はシルバーストーン、サンパウロ、バーレーン、富士スピードウェイ、上海。明らかにレース数の増加と夏休みルールがもたらした弊害だ。

シーズン開幕の3月から5、6月あたりまでは割とゆったりとした感じでレースが行われているように感じる。レース数を数えてみると、それほど差があるわけではないが、やはり9、10月はシーズン最後の駆け込みレース開催といった感が強い。加えて世界中あちこちの国で開催されるために異動などを含めるとせわしない感じがするからだろう。

そもそもF1とかWECは世界選手権だから、どの国で行われてもいいはずだが、なぜだかモータースポーツはヨーロッパが中心になって、そのほかの国へ出掛ける時にはフライアウェイなどという。まあ、ヨーロッパ人は自分たちのテリトリー以外は〝エイリアンの住む地域〟だと思っているところがあるから、わざわざ飛行機で飛んで行ってやっているんだぞという感覚が、フライアウェイなどという言葉を生んだのだろう。日本から

モータースポーツ速報 iモード
アクセス手順 iMenu→メニューリスト→スポーツ→モータースポーツ→トーチュウF1 exp
Yahoo!ケータイ
アクセス手順 メニューリスト→スポーツ→F1・モータースポーツ→トーチュウF1exp
EZweb